

国語

(解答番号

1

31

101

107

第1問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ミロのヴェーナスには手が無い。もとはあったものが失われてしまったものと見られる。これは偶然がこしらえた半※トルソーとも言うべきものである。原型がどういうものであったか、いまと違ってはだれにもわからないが、現在の形のままで、すぐれた芸術品なのだから、A偶然がこしらえた芸術ということになるであろう。しかし、あの像に手があつたらどうであろうか、という空想は、多くの人々の頭をかすめるもののものである。何でもあの像が発見された場所の近くに腕が見つかったという事で、それがあの像の腕ではないかという意見があり、それをつけようという試みもなされたらしい。このあたりは、すべて人からきいた話で、根本の知識はまことに心もとない。

ミロのヴェーナスに腕をつけようとする態度の裏にあるものは、芸術は原型がもつともすぐれているという考え方である。まざりもののある形や、模写や、破損されたものは、原型よりも、必ず劣っている。原型に復することのできるものは原型にすべきであるという考え方である。両腕のないミロのヴェーナスは十分美しいのに、破損されたものなら、もとの型を復原しようという気持ちの人々の心の中にうごめいているらしい。両腕をつけたら、きつとそれだけ美しくなるというホシヨウはどこにもないのに、I原型を尊重する態度のあることは注目に値しよう。完全なものがよい、純粋なものがよい、流れのさきのほうよりも、発端のところをきわめた——こういうB源泉主義思想ともいえるべきものが人間の心の中に宿っているらしい。

これが芸術においては、模写、模倣より原作、原型を価値あるものと感じさせ、歴史においては、事象を究極のところまで遡って明らかにしようとする方法をとらせるようになる。書物や文学の世界では、すべての表現は、作者、著者の書いた通りのテクスト(原本)にもっとも価値があるとするとする文献学的な考え方が、IIこの源泉主義に拠っている。

原型、純粹、絶対、完全——こうしたものを求め、また求めて得られると考え、それを尊重するのは、III※樂天的思想である。こういう思想が近代悪の社会の中から生まれてきたことは興味深い現象である。Cわれわれは、普通、不完全で、崩れた形のものにしか接することができない。メートル原器を一度も実見したことのない人間が、みんな目の前の物差しをメートルであると信じている。

シェイクスピアの原稿を見た人はいまの世界中に一人もいないが、多勢の人はその作品に感動している。古城の廢墟はそのままで美しいのである。原型に復そうとして、かえって、つまらぬものにしてしまった例は少なくない。

お城の復旧工事がほうぼうで行われるが、建築的復旧がときに美的破壊であることが反省されているであろうか。金閣寺が焼けて、あとにできた建物は原型がそうであったであろうように金色※燦然としていたが、われわれは、それをむしろ悪趣味と感じる。足利義満が建てた当時の金閣寺もまたある種の悪趣味をただよわせていたのではなからうか。時の流れがその悪趣味なところを洗い落とし、※いぶしをかけて、※渾然たる芸術にしていた。焼けて復原するとまた悪趣味がDロコツにあらわれる。

源泉主義は必ずしも芸術に組まない。むしろ、D時間や空間が行う破壊作用の中にこそ美を生ずる力があると考えるべきであろう。歴史がしだいに原型を崩して美をつくり上げたとき、それを見た人間が、その美の由ってくることを深く考えないで、ただ原型復帰を願うというのは、矛盾した行為である。さいわいに多くの場合、

原型は失われていて、復原できないからよい。それがわかっている場合でもなお、源泉主義思想が根づく働いているのはEおどろくべきことである。

ミロのヴィーナスは、そういう源泉主義に対して、欠損、不完全、偶然の行う不作為の芸術化作用などを無言で説いているように思われる。IV両腕が出てきても、あの像にそれをつけてはいけないのである。

文学作品などについても同じようなことが言える。原型が破損され、崩されたために生じている価値がある。その欠けているものを原型に復すれば、それだけ価値が高まるように考えるのは源泉主義を承認する限りにおいて©タトウであるにすぎない。そこで芸術作品一般における未完成の価値が問題になる。未完成は作者の手をはなれるとき完成の状態に達していなかった作品をよぶことばであるが、作者が完成させておいたのに、その後、なにかの事情で、不完全な形に変わってしまったものも、未完成に準ずる不完全である。

そういう不完全なものが原型あるいは、完全な形をもったものに劣るといのは、現代の常識のようになっていくが、あくまで常識ではない。未完成のままですぐれた芸術になっている作品はじつに多い。それを未完成であるといって、惜しむのは、あたらないのではないか。むしろ、それは、未完成の状態で美しいのである。絵画で、※デッサンとそれを仕上げた絵とがあつて、デッサンのほうが、完成した絵よりもすぐれた「作品」であることもありうる。

このように見てくると、源泉主義の考え方だけでは芸術が理解できないことがわかってくる。むしろ、源泉主義は、芸術の生命の真の姿を覆ってしまう。源泉主義は、物としての作品の完璧さを求めるが、芸術批評にかかわるとき、F微妙な矛盾を内包する。源泉主義は、いわば、物件批評である。作品の外形からの価値を論ずる。こわれたものは、その※検閲をパスすることができない。

しかし、一方では、形は崩れているが、あるいは原型が變形されているが、それにもかかわらず、またはそれゆえにこそ美しいとい

う美的批評がある。それが、ヒビの入った茶碗、両腕のない女神の像、※異本であることが明瞭な、そして異本しか残っていない文学作品を美しく、価値のあるものとしていたのである。芸術一般において源泉への①シンコウはあらためて検討を受ける必要がある。

ミロのヴィーナスは、写真で見ても、一面に※アバタのような小さなあなが見られる。腐食のあとであろう。もちろん両腕がない。これは、作者の意図によるものではなくて、自然が行なった一種の破壊行為である。それが偶然、トルソーに似たものをこしらえ上げた。一般に古い芸術作品には、こういう自然の破壊作用（あるいは、美の風化作用と言つてよいかもしれないが）を想定しないと、説明のつきかねるものが多い。

こういう自然な状態の中において未完成になった作品の感じさせる美しさが、ロマンティックな美学を形成していったと考えられる。※デイフォルメの美ということも、その延長線上において理解される。ロマンティックな美学が確立すると、はじめから未完成の美をねらった意図的な芸術活動が行われるようになる。これは、自然の不作為な破損による不完全と形式的には通ずるところがあるとしても、芸術としてはまったく、別個のものである。ミロのヴィーナスは現代人の美感の典型を示すであろうが、現代の芸術活動がそこに感じられる美を目標として出発するならば、その結果生まれるものは、まず、G時の試練に堪えられない、短命なものになるであろう、ということが予想される。

それにしても、作品の完成とか未完成とはどういう意味か。はたして芸術作品には終わりがあるのか。どういう終わり方がもつとも未完と、どう違うか。ミロのヴィーナスは、破損されたと考えべきか、それとも、あれが完成だと考えるべきか。H源泉主義ならばこれらの答えは明瞭で疑問を残さないであろうが、I芸術現象論でも言うべきものの立場からすれば、答えは必ずしも簡単に出ないのである。何かわれわれの心の中の大きな謎が解けていないという

感じがする。美しさという問題を考えているうちに、根本はそういう途方もない結論に達して、ミロのヴィーナスを見ざる感想もまた未完成に終わらざるをえなくなった。

(外山滋比古 『新・学問のすすめ』 一部改変)

※ (文中のことばの意味)

トルソー : 胴体だけの彫像。

楽天的 : ものごとを深く考えず、良い方にとらえる考え方。

燦然 : きらきらと美しく輝くようす。

いぶしをかけて : ものごとを味わい深いものにして。

渾然 : 別々のものがひとつにとけあうこと。

デッサン : 絵や彫刻の下絵のこと。

検閲 : 検査し、内容を調べること。

異本 : 書き写したことによって、元の本とは違いが生じた本。

アバタ : 顔に残っているくぼみ。

ダイフォルメ : 変形させたりゆがめたりして表現すること。

問 1 〓 線 ㉔ ㉕ のカタカナを漢字に直しなさい。

解答番号は裏面の 101 〓 105

㉔ 「ホシヨウ」 101

㉕ 「ロコツ」 102

㉔ 「ダトウ」 103

㉕ 「シンコウ」 104

㉔ 「ユウコウ」 105

問 2 I IV に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の① 〓 ④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 1

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|----|------|-----|------|----|------|
| ① | I | やはり | II | かりに | III | とにかく | IV | いわば |
| ② | I | とにかく | II | やはり | III | いわば | IV | かりに |
| ③ | I | かりに | II | いわば | III | やはり | IV | とにかく |
| ④ | I | いわば | II | とにかく | III | かりに | IV | やはり |

問3

——線A「偶然がこしらえた芸術」とありますが、どのような芸術ですか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **2**

- ① 原型がわからなくなったから、空想で原型を考えて作りあげることによっていっそう価値が高まった芸術。
- ② 作者の意図で今の形になったものではなく、自然の力が加わることによって作りあげられた芸術。
- ③ 作者の思いがけないひらめきで作りあげられたものであり、決して模倣することのできない芸術。
- ④ 像が発見された場所の近くでたまたま見つかった腕によって、原型に近い形に復原することのできた芸術。

問4

——線B「源泉主義思想」とありますが、これはどのような考え方ですか。文中から十八字以上二十字以内で抜き出さない。ただし、句読点等がある場合は、それらも字数に含みます。解答番号は裏面の **106**

問5

——線C「われわれは、普通、不完全で、不純で、崩れた形のものにしか接することができない」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **3**

- ① 私たちの生活の中で接するものは、多くのものは原型ではなく、原型に触れることがめつたにないということ。
- ② 私たちの生活の中で接する芸術作品は、偶然にできあがったものばかりで、原型の美は感じられないということ。
- ③ 私たちの生活の中で接するものには、原型に価値が置かれているが、不完全なものの方が好ましいということ。
- ④ 私たちの生活の中で接する模写や模倣されたものは、原型よりも質的に高く、それを求めてしまうということ。

問6

——線D「時間や空間が行う破壊作用の中にこそ美を生ずる力がある」とありますが、どういふことですか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は **4**

- ① 芸術作品にみられる不作為な破損の中に、その作品が経てきた歴史を感じることで、それが美しさの価値となっているということ。
- ② 長い歴史の中で芸術作品が破壊されてしまうことは、美を失う原因となるので、それを防いで今の美しさを守ることが必要であるということ。
- ③ 芸術作品を原型に戻すには多くの時間と場所が必要であり、時には人間の手で破壊することによって、原型の美に近づけることができるということ。
- ④ 原型が失われていて復原できない状態になっても、時間をかければ元に戻すことは可能であり、その作業が美を生み出すものであるということ。

問7

——線E「おどろくべきこと」とありますが、何におどろくのですか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **5**

- ① 歴史的に貴重な作品を破壊してわざわざ不完全な作品にすることで、歴史を感じさせようとする。
- ② 原型がどのようなものであったか明確にわかっている場合でも、復元し完全な状態にしようとする。
- ③ 原型がわかっていない場合でも壊れたままの状態にして置き、原型に戻そうとしない。
- ④ 歴史を経て原型が崩れているからこそ価値があるのに、原型に戻そうという考えが強く残っている。

問8

——線F「微妙な矛盾を内包する」とありますが、どのようなことが「矛盾」しているのですか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は **6**

- ① 復元すると外形はより原型に近づくが、その美しさは失われることがあるということ。
- ② 優れた芸術作品にするためにわざと未完成にしているが、それは完全な形のものに劣っているということ。
- ③ 芸術の本質を理解できていないにもかかわらず、芸術を批評する人が多くいるということ。
- ④ 復元には時間やお金がかかることだが、それをしようとする人が多くいるということ。

問9

——線G「時の試練に堪えられない、短命なものになる」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は **7**

- ① 未完成の美をねらった意図的な芸術活動によってつくられた作品は、その腐食や破壊によって今後すぐに壊れそうであるから。
- ② 未完成の美をねらった意図的な芸術活動によってつくられた作品は、流行とともに評価が変わり永遠に美を感じさせるものではないから。
- ③ 未完成の美をねらった意図的な芸術活動によってつくられた作品は、長い歴史を経た中で自然による破壊作用が働いていないから。
- ④ 未完成の美をねらった意図的な芸術活動によってつくられた作品は、新しく歴史が刻まれていないのですぐに飽きられてしまうから。

問10

——線H「源泉主義」・I「芸術現象論」とありますが、それらの考え方でミロのヴェーナスを見た場合、その答えはどのようなものであると筆者は述べていますか。最も適当なものを、あとの①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号はHが **8**・Iが **9**

- ① 破損されたもの
- ② 答えは簡単に出ないもの
- ③ 完成されたもの
- ④ わざと未完成にしたもの
- ⑤ 復原されたもの

問11

本文で述べられている内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **10**

- ① 歴史を経た中で破損されたものは、原型に復原することが大切であり、ミロのヴェーナスもいずれ復原されるであろう。
- ② 芸術作品の美しさには、そのものの美しさだけでなく、さまざまな歴史的経緯も重要な要素としてかわっている。
- ③ 何でも元に戻そうとする源泉主義思想は、私たちが求めていることであり、その考え方が芸術や文化を支えている。
- ④ 完成されたものと未完成のものとは、明らかに完成されたものの方が美しく、芸術的価値も完成品の方が高い。

第2問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

東京でギャラリーの代表として務める若瀧香魚子は、父の経営する美術館の再建に向け、青森県在住の老画家のアトリエを訪れることになる。美術館再建に向け奔走する香魚子は偶然にも手にした老画家である上羽硯(ケン)の画集に魅せられ、実際に自分の目で作品を見たいとアトリエに足を運ぶ。そこには、絵描き仲間である緒形芙久(フク)がいた。老画家の絵を見たいという香魚子の申し出により、りんごの木が中庭にある納屋の天井裏に三人が上がっていく。

かれこれ二年になろうか。ケンのたよれる実弟、明彦をはじめ、村の友人たちや青森美術連盟のメンバーが発起人になり、『上羽硯美術館建設準備会』を立ち上げ、行政に話を持ちかけるところまで至っている。しかし、船頭多くして船山に登ることわざどおり、それぞれが自分の立場で意見を言い合い、結局、話は進まず頓挫したままだ。女性のメンバーはフク一人だが、まったく、男たちは、年を重ねてそれなりの責任や立場を持つてしまうと、どうしてこうも㉑小回りがきかないのだろう。じれったいことだった。

だが停滞している話をよそに、こうしてケンの真価を認めた人が外から来た。

ケンの絵はいずれひろく世間が認めるだけの絵であると、フクはずっと信じてきた。彼が世間に知られることなく、こうして津軽の片田舎に埋もれていることがおかしいのだ。

だがそれにしても、この細っこい女を、たよりにしていいものやら。

油絵の匂いがする。明かり採りの窓のせいで、わずかに明るいつ

井裏。ぱちん、と音をたて、裸電球が一個、灯った。緑のビニールシートを掛けられて、そこにも沈黙しているものたちがいた。

ケンが無造作に、無感動に、端からシートを除けていった。ばりばりばり、とグリーンシートがきわだった音をたて、同時に世界は向こうとこちら、色あるものと光なきもの、二つにはがされ、分けられていく。

現れたのは、ぎつしり、並べて詰め込まれた大小さまざまな※キヤンバスだった。

どれも※五十号を超す大作ぞろい。新聞紙の一枚にすらくるまれることなく裸のままに重ねられた、A画材以上の扱いをされないものたち。香魚子は※慄然として立ち尽くしている。

「Bどうしてこんなことしてるんですか」

香魚子が言うのを聞いた。小さく冷たい声だった。

どうしてって……。思いがけない言いがかりをつけられて困る人のように、ケンはぼりぼりと頭をかいていた。そして手近なものを一枚、抜き出した。

それは手品か。彼の手が、こことは違う別な世界を切り取り引き出してくるのに、香魚子の視線は吸い寄せられたまま離れない。キヤンバスの片側には、想像もしない大胆な構図の絵が完成していたからだった。

フクもまた、言い尽くせない幸福な気持ちでそれを見ていた。ケンの絵の中でもとりわけ好きな、りんごの木の絵。

まるで王女の冠のように、白い、静かな花を無数にちりばめ、咲き誇る木。花に燃え立ちながら、幹を天へと向けてそそらせる木だ。だがそれが美しいのは、樹木が生い立つ地面の色、たしかかな土の色が、背後の夜の闇に呼応しているからだ。

土の色を描ける画家。フクは常々ケンをそう評している。時には

※テラコッタのように赤く乾き、※穀雨の頃には恵みの雨をしみ通らせて、黒く※肥沃に潤って、また時としてそよぎ立つ麦の穂の

パステルカラーにやわらかくなじむ。ここに根ざし、ずっと大地を見てきた彼の感性だけが出せる色だろう。

香魚子の目が大きく見開かれる。たった今まで自分がいると認識していた狭い場所が、一瞬にして別の次元の場になった。

その華やぎ。その彩り。絵は、今自分が生きて暮らす現実をはるかに飛び越し、まったく違う世界へいざなう時空間の扉のようなのだ。

また一枚、絵が引きずり出される。今度は、そのりんごの木の
上、茂った葉に埋もれながら、りんごの果実をもぎとる人間が二人、後ろ姿で描かれている。顔は見えない。ただ無骨な手元が、黙々と作業する農家の夫婦の息づかいを感じさせる。

言葉がすぐには出てこないのだろう。ケンはまだあるよと言いたげに、次の一枚を引きずり出そうとする。香魚子はそれを、近づいていつて静止するのがやつとのようだ。

「何枚ありますか？」

声がうわずついている。だがケンはいつもと同じ、照れやはにかみやとまどいを含むふわつとした間のあと、香魚子を見ずに答えるのだ。

「そんだな。百五十枚ぐらい、あるんでねが」

C 香魚子の細い体がぐらりとしたように見えたのは、圧倒される絵の数が放つ無言の力のせいだったのか。思わずフクは腕を差し出し、彼女を支えずにはいられなかった。

すみません、と小さく頭を下げてしゃがみながら、香魚子はケンに向かつてこう言った。

「D どうしてこんなことしてるんです」

さつきと同じ問いではあったが、今度は泣き出しそうな声だった。

明かり採りの高窓から、なにか特別な光がさしこんでいるように、フクはひどくやすらかな気持ちになった。膝を折り、その場にひざまずいて、香魚子は、いとおしむようにキャンパスの縁を撫で

ているのだ。

フクはケンの代わりに何か言おうとしたけれど、思い浮かんだ言葉はどれも声にはならなかった。收藏しておく場所が他にはなくて。美術館を設立したいのだけれど、巧く進んでなくて。——どれも、言い訳にすぎない。なぜなら東京から来た彼女が言いたいのは、上羽硯のこのすばらしい絵を、どうしてがらくたのような扱いで、光のささないこんな場所に押し込めているのかという非難なのだ。

三人とも、黙っていた。沈黙へ追い込んだのは、香魚子が発する東京の言葉の無機質さのせいでは決してない。やがてぼりぼりと頭をかきながら、ケンはそのどかな津軽弁で言った。

「他に置くどこねべ」

尖りかけた空気がふわりと溶けて漂う。まるで、叱られた子供みたいに、ケンが後ろで小さくなっていった。

半ば笑いながら、香魚子はつとめて

* で訊いた。

「あのですね。——誰にも見せるつもりがないなら、百五十枚ものこの作品、いったいどういうつもりで描きためたのですか？」

眼鏡の下で、困ったような目がさまよう。香魚子は重ねて訊いた。

「こんなところに押し込むしかない絵を、どうして一生懸命、描いてるんですか？」

E 何が訊きたいか、今度はわかってくれたか、という目でケンを睨む。

だが、ケンの答えは香魚子の予想を超えていた。

「そりゃあ絵描きは絵を描くだろ。船頭が船をこぐようなもんだ」

争うつもりなどまるでない、だが決して曲げる気のない確たる主張。フクは後ろに下がり、電灯が作る光の輪からはずれて二人の会話を見守った。

おれはただ・絵を描けば・それでよい——。詩を書く男でもあるケンの、若き日の、決意のような言い訳のような、詩の第一連がよ

みがえってフクを揺すぶる。それは遠い日、東京で一人で暮らしていた自分にくれた手紙の中にあつた詩だ。

「でも、——でも、絵は誰かに見せなければ売れないし——第一、失礼ですが、絵を生活の糧かてにされてないなら、いったいどうやって生活なさってるんですか？」

それは相当に失礼な問いだった。相手が香魚子でなかったら、フクも、そんなこと人の勝手でしょう、と⑤口をはさんだかもしれない。だが自分が入るべきではなかった。これは、外から来た訪問者が運ぶ空気と、この地に滞とどるケンの温度が、ぶつかり、※攪拌はんぱんされるか、あるいはそれぞれを保って独立するか、その対決なのだ。それに、フクはすでに答えを知っている。

「生活ってが？ 食ってぐぐらい、なんどしてもでざるべ」
ケンの答えはまたしてもゆつたりとした笑いだった。空気が、ふわっと舞い上がる。◎あつけにとられ、香魚子はただ意味もなくケンを見上げた。

そう思う・おれはただ・絵を描けば・それでよい——有無うむを言わせぬ答えであった。

しかしケンは、自分の言葉が彼女に衝撃を与えたと知り、気の毒そうに、静かに言った。

「F描くための絵もあるんでねえか」

描くための絵？ いきなり口にはうりこまれた飴玉を舐めて転がし確かめるように、香魚子が小さくくり返すのがわかる。描いて、完成させて、そして納屋に押し込む、それだけの絵があるなんて、と香魚子はまだ納得がいかない顔をしていた。

どこかで・おれの絵が・何かのたしに・なるか・ならぬか
つまるところ・考えても・考えても・行き着くところは
いかに・わがままであろうと・なかるうと
それより道はないと

おれはただ・絵を描けば・それでよいと・そう思う・のである

G ケンがかつて書いた詩は、今やフクの中ではつきりかたちをとり戻し、言葉の共鳴を始めていた。それが彼の生きざまであり、芸術観だ。人にいかに言われようと動かない。

照れ笑いしてから、ケンは慰めるように言い足した。

「人が、食べたら排泄はいせしないと死んじまうように、描かなきゃどこか胸の一部が詰まって死んじまうやつだっているべ？」

なんという表現をするのだ。フクはくすつ、と笑いを洩もらしそうになった。絵が排泄物だなんて。だから人には見せられないだなんて。

ケンが、つられてドホホ、と笑いを洩もらす。するとその笑いがまたおかしくて、フクがダハハ、と笑う。

笑いは拡散されて伝染する。香魚子だけが途方にくれたように、笑いから取り残されて二人をかかわるがわるに見つめ返すばかりだ。

(玉岡かおる 『ひこばえに咲く』 一部改変)

※(文中のことばの意味)

キャンバス：油絵をかく布。麻布などの上に塗料を塗ったもの。

画布ともいう。

五十号：キャンバスの大きさ。

凛然と：恐れおののく様子。

テラコッタ：陶器や建築用素材などに使われる素焼きの焼き物。

また、そのような色のこと。通常、茶色があった才

レンジ色。

穀雨：二十四節気の一つ。陽暦の四月二十日頃に当たる。

肥沃：土地が肥えていて、農作物がよくできること。また、その

のさま。

攪拌される：かきまわされること。

問1

——線①～④の文中における意味として最も適当なものを、あとの①～④のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は **11** ～ **13**

① 「小回りがきかない」 **11**

- ① 状況に応じたすばやい動きができない
- ② 年齢とともに知恵が回らなくなる
- ③ 問題を解消するのに時間がかかる
- ④ 人数が多いため意見がまとまらない

② 「口をはさんだ」 **12**

- ① 他人からの質問にすぐさま対応した
- ② 相手の言うことを否定するように拒んだ
- ③ 他人の話している間に割り込んで話した
- ④ 自分たちのことを悪く言う人を非難した

③ 「あっけにとられ」 **13**

- ① 期待していた返答ではなく残念に感じて
- ② 期待していた返答だったが物足りなくて
- ③ 意外な返答だったが納得せざるを得なくて
- ④ 意外な返答だったので驚き呆然^{ぼうぜん}として

問2

——線A「画材以上の扱いをされないものたち」とありますが、これと同じようにそれらの「絵」を表現している部分を、これより前の文中から十字で抜き出さない。ただし、句読点等がある場合は、それらも字数に含みます。

解答番号は裏面の **107**

問3

——線B「どうしてこんなことしてるんですか」、D「どうしてこんなことしてるんです」とありますが、これらに込められた香魚子の心情として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号はBが **14** ・ Dが **15**

- ① 現実をはるかに超えた別世界へといざなうほどの秀作が、まだ大量にあるという信じがたい現実に対する驚き。
- ② この土地に根ざした創作活動のもと、老画家の感性が存分に表れ出た大作に出会えたことに対する喜び。
- ③ 画集の中だけでなく実際に大作を見ることができると期待していたが、それほどでもなかったことに対する落胆。
- ④ 画家が自ら描いた絵を、薄暗い納屋の天井裏に無造作に押し込むような扱いをしていることに対する反感。
- ⑤ 画家がこんな山深い人目につかない場所で、絵を描く目的さえ持たずに創作活動していることに対する不可解さ。

問4

——線C「香魚子の細い体がぐらりとしたように見えたのは、圧倒される絵の数が放つ無言の力のせいだったのか」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は **16**

- ① 一枚目の絵から想像もしない大胆さに圧倒され、二枚目は土の色を描ける画家として評価できるものがあつたので、老画家の才能を香魚子は見くびっていたということ。
- ② 無造作に取り出された二枚の絵から、老画家の感性に感動している香魚子に追い打ちを掛けるように、まだ同様の作品が多くあることを聞かされ、驚いているということ。
- ③ 引きずり出された絵の一部を見ただけでもその才能は認められるべきなのに、いまだ納屋から解き放たれないことへの憤りが、次第に青森美術連盟への怒りになったということ。
- ④ 身近にいるフクにさえも幸福感をもたらす秀作を、なぜ、ふだんから交流のあるフクが、この地に留めておくことを許しているのかと不審に感じているということ。

問5

* に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **17**

- ① 愛想のない声
- ② 優しい声
- ③ 気落ちした声
- ④ とげのある声

問6

——線E「何が訊きたいか、今度はわかってくれたか、という目でケンを睨む」とありますが、ここでの香魚子の心情を説明したものととして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **18**

- ① ケンに問いたたきしても、その真意が通じなかったというやるせない気持ち。
- ② ケンに問いたたきしたことが、かえって逆効果になったという腹立たしい気持ち。
- ③ ケンに問いたたきしたことで、感情的にさせてしまったという後悔する気持ち。
- ④ ケンに問いたたきしても、明確な返答がなかったといういらだたしい気持ち。

問7

——線F 「『描くためだけの絵もあるんでねえか』／描くためだけの絵？ いきなり口にはうりこまれた^{あめなま}飴玉を舐^なめて転がし確かめるように、香魚子が小さくくり返すのがわかる」とありますが、ここから香魚子がケンの言葉をどのように受けとめているということがうかがえますか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 19

- ① 香魚子の失礼な質問に対して、屈辱的な思いになったケンの口から発せられた「描くためだけの絵」という言葉を、日々の貧しい生活を背負った苦しみとして受けとめている。
- ② 香魚子の質問に対して、想像もしなかったケンの口から静かに吐き出された「描くためだけの絵」という言葉の意味を、自分なりに時間をかけて何とか理解しようとしている。
- ③ ケンの口から勢いよく発せられた「描くためだけの絵」という言葉を、香魚子の失礼な質問に対する反撃だと感じ、負けじと次の一手を考えるものとしてとらえている。
- ④ 香魚子はケンの口から何気なく出た「描くためだけの絵」という言葉を、芸術家らしい資質としてとらえ、その才能を是^ぜが非^ひでも開花させたいと考えている。

問8

——線G 「ケンがかつて書いた詩は、今やフクの中ではつきりかたちをとり戻し、言葉の共鳴を始めていた」とありますが、どういうことですか。その内容を説明した次の文のアとウに入る語として最も適当なものを、あとの①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は アが20・イが21・ウが22

以前、ケンから送られてきた手紙の中にあつた詩の言葉は、目の前のケンの姿と重なり合い、揺らぐことのない確たる強いアとしてあふれ出ている。「おれは・ただ・絵を描けば・それでよい」という言葉を、まさに、絵を描くイ自体が彼の芸術や人生に対するウの表れとして、フクは感じているということ。

- ① 価値観
- ② 行為
- ③ 信念
- ④ 反発
- ⑤ 未来

問9 この文章における表現と内容について説明したものととして適

当でないものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 23

- ① 老画家の非凡な才能を、ケンの持つ「ふわりとした空気」のようなものに託し、また、その土地に根ざした画家の感性を「土の色を描ける画家」として表している。
- ② 「香魚子」と「ケンやフク」、「色あるもの」と「光なきもの」、「現実」と「全くちがう世界」などの相反する要素により、異なる世界観が作りだされている。
- ③ 香魚子は「絵」を生活する上での糧、つまり商品としてとらえているが、ケンは「絵」を描くことが自己存在や人生を成り立たせるものとして考えている。
- ④ 「ぼりぼり」「ぼりぼり」とシートをはがす音や頭をかく音をひらがなで表しているのに対し、ケンとフクの笑い声を「ドホホ」「ダハハ」とカタカナで区別することにより、二人だけの目に見えない絆をきわだたせている。

問題は次のページに続きます。

第3問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

近頃、※奥州にある山寺の※別当なりける僧、※本尊を造立せんと年ごろ思ひ企て、※金五十※両、※守り袋に入れ、頸にかけ、※上洛しける程に、※駿河の国、原中の宿にて、昼、水浴みける所に、この袋を忘れて、次の日の夕方、思ひ出したりけり。口をしく、※あさましかりけれども力及ばず。「今は人の物にぞなりぬらん。帰りて尋ぬともあらじ」と思ひ、上洛してむなしく、下向せんも、本意なく覚えて、※形のごとく本尊を造りたてまつりて下りける。

さて、原中の宿にて、※下人に、「この家とこそ覚ゆれ」など言ひて、見入れて通りけるを、家の中より、若き、女人ありて、「何事を仰せらるぞ」と言ふ。「上りの時、物を忘れたりしが、この御宿と覚え候ふ事を申すなり」と言ふ。「何を御忘れ候ひけるぞ」と問ふ。その時、※あやしくて、馬より下り、「※しかじかの願を起こして、金五十両入れて候ふ守り袋を忘れたり」と、ありのままにくはしく語れば、この女人、「童こそ見つけて候へ」とて、※認めしままで取り出で、とらせければ、あまりの事にてあさましくこそ覚えけれ。さて、「これは失せたる物にてこそ候へ。十両は女房

に参らせん」と言へば、「ほしくは、五十両 ながらこそ引きこめ候はめ。仏の御物なり。 いかが少しもたまはるべきか」と言ひければ、※なかなかとかくの子細に及ばず。

「下りの時、よくよく申すべき 旨あり」とて、やがて上洛して、本尊思ふごとく造立して、下りさまに、この女人を尋ねて、「そもそも、いかなる人にておはするぞ。いかやうなる事をして過ぎさせたまふぞ」などと、こまやかに語らひ聞きければ、「京の者にてはべるが、親しき者も皆失せて、縁につれて下りてはべるが、

あからさまに思ひし程に、この宿に一兩年住みはべり」と言ふ。

「さては、いづくも同じ御旅にこそ。 いざさせ給へ。 小所領など 知行する身なれば、世間後見てたべ」と言へば、「承りぬ」とて、やがて 具せられて下りて、世間後見て、楽しく心やすく、当時までありと聞こゆ。

※上古には、かかるためしもあり。当世には、まめやかに ありがたき、賢人なり。

※(文中のことばの意味)

奥州…東北地方の昔の呼び名。

別当…ここでは住職。

本尊…その寺で中心としてまつられている仏。

金…砂金。

両…重さの単位。

守り袋…お守りを入れる袋。ひもをつけて首にかけた。

上洛…地方から国の中心であった京の都へ行くこと。

駿河…現在の静岡県中部。

あさましかり…あきれてしまう。

下向…京の都から地方へ帰ること。

形のごとく…とりあえず一通り。

下人…お供の者。

あやしくて…不思議に思っ

しかしかの…これこれの。

認めしままで…準備した時のままで。

なかなかとかくの子細に及ばず…かえって何とも言えなかった。

旨…こと。

縁につれて…縁あって。

いざさせ給へ…さあ一緒にいらっしやい。

小所領…ちよつとした領地。

知行…領地を治める。

世間後見てたべ…財産の管理をしてください。

具せられて…連れられて。

当時まで…今も。

上古…昔。

まめやかに…本当に。

問1

線①「ながら」・②「あからさまに」・③「楽しく」

・④「ありがたき」の意味として最も適当なものを、あとの①④のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は

24

く

27

①「ながら」

24

- ① 部分
- ② 全部
- ③ 半分
- ④ 一部

②「あからさまに」

25

- ① ほんのすこしも
- ② あきらかに
- ③ ほんのしばらく
- ④ はつきりと

③「楽しく」

26

- ① 愉快に
- ② 気楽に
- ③ 裕福に
- ④ 強運に

④「ありがたき」

27

- ① ぐらしくい
- ② もったいない
- ③ むずかしい
- ④ めったにない

問2

——線A「本意なく覚えて」とありますが、「僧」はなぜ不本意に思ったのですか。その理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **28**

- ① 金をなくしたので、上洛することも仏像作りを頼むこともできないから。
- ② 金をなくしたので、上洛したとしても仏像作りもできないから。
- ③ 金をなくしたので、たとえ上洛しても仏像作りを頼むこともできないから。
- ④ 金をなくしたので、上洛したけれども仏像作りを頼むこともできないから。

問4

——線C「いかがが少しもたまはるべきか」とありますが、ここに込められた「女人」の思いとして最も適当なものを、次の①～④のうち一つ選びなさい。解答番号は **30**

- ① 要求
- ② 辞退
- ③ 承諾
- ④ 遠慮

問5

文中の ***** に入る語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **31**

- ① 冷静
- ② 慎重
- ③ 正直
- ④ 謙虚

問3

——線B「女人」と同一人物を示す語句として **適当でない** ものを、文中の **~~~~~** 線に示されてある次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **29**

- ① 童わらは
- ② 女房
- ③ いかなる人
- ④ 親しき者

これで問題は終わります。